

平成 26 年度 インクルーシブ教育システム構築モデル事業 成果報告書Ⅰ
【インクルーシブ教育システム構築モデルスクール】

教育委員会名

岩手県盛岡市教育委員会

概 要

モデルスクールの概要（平成 26 年 5 月 1 日現在）

	モデルスクール名	在籍者数	教職員数
1	盛岡市立土淵小学校	379 名	21 名

【事業概要】

1. モデルスクールの特色（特別支援教育に関する事項）

- ①盛岡市立土淵小学校は、本市西部に位置する農村地区にあり、地域に根差した教育活動を保護者と連携を図りながら展開している。地域住民は、盛岡市立土淵小学校を自分たちの小学校として大切に思い、在籍している子供たちを我が子のように大切に思っている。障害のある子供であっても、地域の子供として大切に育てている地域である。
- ②盛岡市立土淵小学校は、校長をはじめ、全ての教職員が特別支援教育に関して理解があり、学校一丸となった取組が期待できる。
- ③盛岡市立土淵小学校には、明るく素直で親切的な児童が多く、特別な支援を必要とする児童への関わりが良好である。
- ④通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童に対して、盛岡市立土淵小学校では、市特別支援教育チーム等と連携を図りながら、適切な指導と必要な支援を検討し、確かな実践を積み重ねている。
- ⑤平成 28 年度から、隣接する盛岡市立土淵中学校との校舎一体型小中一貫校となり、小学校での基礎的環境整備や合理的配慮、人間関係作り等を、中学校と共同歩調で取り組むことが期待できるとともに、確実に引き継がれることについても期待できる。

2. 取組の概要

【教育委員会がモデルスクールに対して行った取組及び支援】

(1) 研修の企画・実施

本市教育委員会特別支援教育担当指導主事による校内研修に加えて、「難聴児の理解」や、「インクルーシブ教育」に関する研修を企画・実施した。

(2) 合理的配慮協力員等の配置・活用

合理的配慮協力員の所属や関係機関等と連絡調整を行うとともに、合理的配慮協力員による学校訪問の際には、本市教育委員会特別支援教育担当指導主事が同行し、進捗状況の把握を行うとともに、合理的配慮の内容の検討や指導・助言を行った。また、必要に応じてモデルスクールを訪問したり、合理的配慮協力員や特別支援教育コーディネーターや担任、記録等補助員からの聞き取りを行ったりするなど、進捗状況の把握に努めた。

(3) 成果報告書・リーフレット等の作成・配布

成果報告書を作成し、市内小・中学校及び県内関係機関に配布した。また、本事業の成果を更に普及することができるよう、A3版のリーフレットも併せて作成し配布した。

【モデルスクールとして行った取組】

(1) 校内委員会の設置

校長、副校長、特別支援教育コーディネーター等による校内委員会を組織し、合理的配慮協力員等の訪問によるケース会議に合わせて、情報の共有や記録の集積を行った。

(2) 個別の指導計画を活用した合理的配慮の検討・調整

合理的配慮協力員による専門的な知見に基づいて、対象児に関わる情報を整理した。また、本人や保護者の願いを個別の指導計画に位置付け、短いサイクルでの合理的配慮の検討・調整を繰り返し行った。なお、本人や保護者からの意思の表明、希望する配慮の確認は、以下の場面等により行った。

◆授業、休み時間、放課後における会話

→担任と本人、支援員と本人

◆随時面談、定期面談、連絡帳の活用、電話

→担任・特別支援教育コーディネーターと保護者

◆随時面談、電話

→担当指導主事と保護者、合理的配慮協力員と保護者

3. 成果及び課題

【成果】

- ・本市教育委員会特別支援教育担当指導主事と合理的配慮協力員が、授業参観やケース会議、保護者面談等を継続的に行うことにより、個別の指導計画等を活用しながら合理的配慮の検討・調整を行ったり、教員の専門性向上を図ったりすることができた。
- ・地域における人的資源を活用することにより、障害のある児童生徒への教育的ニーズに的確に対応できた。
- ・対象児を観察した上で、指導・支援を行う取組を通して、学級に在籍する全ての児童を大切にした学級経営につながった。
- ・対象児への合理的配慮が、結果的に、他の児童が学習に取り組みやすくするための配慮につながった。
- ・短いサイクルでのケース会議を実施することにより、適時性のある指導・支援につながった。
- ・個別の指導計画を活用しながら、合理的配慮を検討・調整することにより、保護者・本人からの意思の表明や希望する配慮を丁寧に確認することができた。

【課題】

今後は、特別支援学校のセンター的機能について更に活用しながら、小・中学校教員の専門性の向上を図るとともに、学校生活における合理的配慮の視点を広げたり深めたりしていくことが望まれる。障害のある児童一人一人に対する教育的ニーズに対して、基礎的環境整備を有効に機能させながら、合理的配慮を検討・調整し、実践を積み重ねていく。